



友の会の皆様

前館長 宗 正孝

新しく発行することになりました館報「みき」をお届けいたします。これまで、聖三木図書館は、会報「ゆるし」を年二回発行してまいりました。二〇一〇年十二月三日の創刊以来、前回の十一号まで、毎号ご好評をいただいております。皆様には今までのご協力を心より感謝申し上げます。新館報「みき」は、二〇一六年七月三十一日創刊、年一〜二回の発行を予定しておりますので、今後ともよろしくお付き合いくださいますようお願いいたします。

今年度四月、図書館長の交代がありまして、新館長マイク・ミルワードに引き継ぎをいたしました。それに伴い、友の会会報「ゆるし」の主力スタッフも退任して、このような変更の運びとなりましたことをご知らせ方々、今後とも聖三木図書館にご支援をいただきますようお願いいたします。この場を借りまして、「ゆるし」の編集スタッフの皆様からは、ボランティアとしてこれまで多大なご尽力をいただきましたことに心からの感謝を申し上げる次第です。「友の会」運営と発展に責任を取ってくださった荒谷幸二郎会長、竹内光編集長、山本順副会長、デザイン担当の鈴木博文氏。特に、新聞記者としての実力と経験を駆使して、多くの優れた原稿を集めてくださった竹内編

集長、レイアウトに寛大なご協力を賜った鈴木博文氏の力は大きく、皆様のおかげで「ゆるし」は良い評判を続けていくことができました。

「聖三木図書館」の名前の由来については、会報「ゆるし」の各号に、簡単な説明がついていましたが、聖三木図書館ホームページには「ゆるし」の既刊すべての号が載っていますので、ご参照ください。ちなみに、名称は、「聖パウロ三木」に由来しています。日本人として、日本においてイエズス会に入会した会員で長崎で殉教した日本二十六聖人の一人です。

なお、「専門図書館」という専門誌がありますが二〇一五年第二七〇号に「イエズス会聖三木図書館」が「思想および宗教の専門図書館」として詳しく紹介されましたので、ご参考まで。

最後になりましたが、イエズス会の図書館として新しく開館しました二〇〇七年十二月以来、図書館長として勤めてまいりましたが、在任中、長らくご支援いただきました皆様に厚くお礼を申し上げます。



館長新任のご挨拶

マイク・ミルワード

前館長の宗先生は、人間学の教授で上智大学の図書館長を勤められたこともある方ですから、聖三木図書館長を任命された時、私で勤まるのかどうか不安を感じましたが、以前からこの図書館は大切だと思っていましたのでぜひ協力したいと思ひ、喜んでお引き受けしました。聖三木図書館は、ご存知の通り一般に開かれた貴重なキリスト教図書館です。

日本のカトリック教会は、十九世紀から経済的・社会的に困っている人に目を向ける傾向が強く、知的な布教に取り組むのはやや遅くなりました。神学院・幼稚園・小・中・高等学校が作られ、ついには大学もできましたが、一般の人に開かれていて、カトリック文化や情報を提供する機関はまだ少ないのが現状です。その

様な状況にあつて聖三木図書館は大切な役割を果たしています。

十数年前、岐部ホールの建築計画が始まった時に、私はそこに聖三木図書館を入れるべきだと主張しました。ちょうどそれまで聖三木図書館が入っていた、上智大学キャンパス内の上智会館を壊す計画が進んでおり、一般の人のアクセスのしやすさを考えると、上智大学内にあるよりもイグナチオ教会隣に建設される岐部ホール内に図書館があつた方が、利便性が高まるだろうと思ひました。

キャンパス内に上智会館ができた一九五七年、聖三木図書館の前身であるイグナチオ教会内の「教会図書室」が上智会館の二階に移動しました。もしかしたら、その「教会図書室」はイグナチオ教会よりも古い歴史があるのかもしれませんが。麹町教会が今のイグナチオ教会になったのは戦後です。第二次大戦前の「麹町教会」は千代田区番町にあつた「聖テレジア教会」でした。イギリス人のレオ・ウオード神父はその教会で図書館を作ろうと計画していたのです。父は名のあるカトリック作家、姉はカトリック出版社の経営者という環境にあつて、カトリック布教のための図書館を作ることには自分の使命と思ひましたのでしよう。聖テレジア教会は空襲で焼けてしまいました。その時焼け残つた書物の一部が、今でも聖三木図書館の書架に並んでいます。

「聖三木」という名称がついた経緯も不思議です。イグナチオ教会の「教会図書室」が上智会館に移るころ、飯田橋にあつたイエズス会員養成の「聖三木修道院」が閉院し、上石神井の神学院に移りました。引越の際には複本や不用図書がたくさんあつたに違ひありません。その本が「聖三木」の名前と一緒に上智大学に移り、「聖三木文庫」（後の「聖三木図書館」という名称になった可能性は高いと思ひます。

戦前から、多くの人の熱意によつて多様なルートを通じて集められた本を今につなげる聖三木図書館は価値があると信じています。そしてこれからも、その歴史と使命に忠実な思いをこめてまいります。

